

文 献 紹 介

吉田 茂樹 著：

『日本歴史地名事典』

新人物往来社 1993年10月

A 5判 458ページ 12,621円

歴史地名の辞典には平凡社『日本歴史地名大系』や角川書店『日本地名大辞典』があつて、都道府県別で約50巻に編集されている。本書のはしがきから引用すると、「一本にまとめた歴史地名の辞典としては、東京堂出版の『日本歴史地名辞典』（藤岡謙二郎編、1981年）があるが、これは歴史地理学者による辞典で、宿場町・港町といった交通地名などは詳細に記載されているが、寺社名、遺跡地名などはほとんど記載されていない。従って、（本書のような）日本歴史全分野にわたって、平均化して、しかもコンパクトな歴史地名辞典は、いまだ日本では出版されていない」かった。

本書を一人で執筆した吉田茂樹氏は、1932（昭和7）年生まれ、広島大学文学部史学科地理学専攻卒業、六甲高校に勤務。著書に『地名の由来』（新人物往来社、1979年）、『日本地名事典・コンパクト版』（同、1991年）がある。吉田氏は、数万の歴史地名について初出と変化をノートしている。

本書の項目（五十音順）の数は3,100で、初出文献が記されている。収録内容は、遺跡、古墳、国郡名、宮都、神社、寺院、荘園、城郭城址、古戦場、街道、鉾山、開拓地、藩名、地域名、自然地名、古典に多出する地名、明治以後の地名である。

試みに、本書の見出し項目から茨城県の地名を抜き出すと次のようになる。東京堂出版『日本歴史地名辞典』（前掲、B 6判540ページ、項目数1,550）にある地名に下線を付けた。

- ・遺 跡 大串貝塚
- ・古 墳 虎塚古墳
- ・国郡名 常陸国、下総国、茨城郡、久慈郡、多賀郡、那珂郡、鹿島郡、行方郡、新治郡、真壁郡、筑波郡、信太郡、河内郡、相馬郡、豊田郡、結城郡、猿島郡、葛飾郡

- ・神 社 鹿島神宮、大洗磯前神社、酒列磯前神社
- ・荘 園 信太荘、下河辺荘、小栗御厨、相馬御厨
- ・城郭城址 小田城、関城、大宝城、水戸城
- ・古戦場 結城合戦場
- ・街 道 日光道中
- ・開拓地 飯沼新田
- ・藩 名 水戸藩、宍戸藩、笠間藩、下館藩、結城藩、古河藩、下妻藩、谷田部藩、府中藩、土浦藩
- ・地域名 水戸、太田、助川、高萩、平潟、那珂湊、潮来、麻生、宍戸、笠間、結城、古河、水海道、取手、北条、石岡（府中）、土浦、牛久、竜ヶ崎
- ・自然地名 筑波山、利根川、鬼怒川、霞ヶ浦
- ・明治以後 茨城県、日立、勝田

本書になく東京堂出版の辞典にあるのは、水戸街道、麻生藩、志筑藩、折橋、小中、鹿島大船津、竹原、片倉（堅倉）、小畑（小幡）、長岡、稻吉、真壁、町屋、中田、藤代、志筑、江戸崎、阿波崎である。吉田氏が指摘しているように、宿場町や港町が多く、本書の方が歴史地名全般から選んでいる。

参考例として、地名表で最初にあげた大串貝塚の記述（原文縦書き、和数字）を引用する。本書では『和名抄』（931～938年）の郡名を記載している。現行の郡とは異なるので注意が要る。また、文献の年代が凡例にもない。

おおぐしかいづか【大串貝塚】 茨城県常澄村塩ヶ崎（常陸国那珂郡）にある縄文前期の貝塚。

『常陸風土記』に「大櫛」が見え、「その食へる貝、積もりて岡となる」と記し、風土記に見える貝塚として著名。昭和12年（1937）と同24年に発掘調査され、縄文土器と共に大量のハマグリ・シジミ・カキが現れ、日本有数の大貝塚として国の史蹟に指定されている。〔平成4年（1992）東茨城郡常澄村は水戸市と合併した〕

（飯島 通明）